

■第3回有識者懇談会 主な意見と対応方針(案)

通し 番号	議事要旨より抜粋		対応方針(案)	計画原案(素案)の修正箇所と修正内容
	カテゴリ	主な意見		
1	個別施策 (防災)	・これから10年の計画の中で、国連防災世界会議を受けた位置付けが重要である。 ・今後15年のグローバルな防災戦略が、東日本大震災の経験を受けてつくられたところであり、その内容を入れて頂きたい。 ・グローバル化、国際交流といった点からも、「防災と言えば東北」というように防災先進国として来訪してもらうことが重要である。 ・また、仙台防災枠組2015-2030でも、「事前の防災投資」、「より良い復興」といったキーワードが出ているので、その辺りも盛り込んで頂きたい。	・グローバルな防災戦略の盛り込み ⇒戦略的目標2-3に新たに「グローバルな災害対応」を追記 ・「仙台防災枠組」の内容を反映・追記する ⇒戦略的目標2-2(1)の冒頭に該当する内容を追記 …仙台防災イニシアティブ／1. 基本方針／ ①長期的視点に立った防災投資②「より良い復興(Build Back Better)」より引用	戦略的目標2 災害に強い防災先進圏域の実現 【項目追記】(資料5 P59 5行目) 3. グローバルな災害対応 (1)多様な主体の連携によるグローバルな災害対応の推進 平成27年3月仙台市で開催された第3回国連防災世界会議で策定された「仙台防災枠組2015-2030」を踏まえ、国際協力の場合においては、多様な主体の連携に加えて、防災に関係する国際機関や地域機関等も含めたネットワークにより、グローバルな災害対応の実現を目指すとともに、地球環境や災害時に広域的な協力を実施することで、教訓を共有しつつ協力効果の拡大を目指す。 具体的には、国際的な災害統計の整備への貢献や、東北圏における取組を含めた「より良い復興」の優良事例の情報発信、復興人材育成活動やそのための体制づくりへの支援等に取り組む。 2. 災害リスクを低減する防災力の強化 (1)ハード・ソフト・土地利用一体となった総合的な災害リスク低減の推進 【項目追記】(資料5 P56 10行目) (長期的視点に立った事前の防災投資の推進) これまで防災への事前投資の結果、災害に強い社会を構築し、経済発展を支えてきた歴史を踏まえ、今後も、災害が発生するたびに緊急対応・復旧措置をとっているだけではなく、長期的な視点に立ち、防災のための予算を確保し、対策を講じていくという防災への事前投資を推進することにより災害に対する強靱性の強化を図る。 【項目追記】(資料5 P56 16行目) (より良い復興 -Build Back Better-) 災害前と同じ状態にただ戻すのではなく、被災の教訓を踏まえ、脆弱性を克服し、災害に対しより強靱な社会への復興を目指す「Build Back Better(より良い復興)」が必要であることから、東日本大震災からの復興の取組を含め、「より良い復興」の取組を継続的に国際社会に発信し、広く普及させ、緊急支援から復旧・復興支援を切れ目なく実施していくことが必要である。
2	対流	・今の日本における研究と社会との関わりをみると、東北では「防災」だと思う。 ・東北は、社会における防災面での拠点となっているので、「対流」の拠点としても防災を盛り込んで頂けたらと思う。	第3章第2節1「震災からの復興とともに世界に発信する防災先進圏域の実現」に記載。	(資料5 P38 25行目以降) 未曾有の大災害を経験した圏域として、震災から得られた教訓を活かしつつ、国土強靱化のモデルとなるような防災先進圏域の実現を目指し、我が国のみならず世界に発信していくなど、グローバルな防災戦略にも貢献する」
3	個別施策 (人材)	・個人的には、過疎地域でどうやって生活を維持・定着させるか、ということに取り組んでいる。経済的な安定が必要となり6次産業等に取り組んでも、そんなにうまくいかないという現状がある。 ・若い世代の方に東北に来てもらう取組や産業のあり方を考えるのが今後大事だと思う。	第5章3 「東北圏における人口減少対策プロジェクト」の「人口減少・若者の定着」を記載。	(資料5 P128 15行目)
4	個別施策 (外国人受入環境)	・世界の人が来られるようにすることが重要である。しかし、言語の問題があり、外国人が移住・参加するには環境が整っていない現状がある。 ・人口流入を目指すのであれば、海外から人を集める環境整備も重要である。	海外から人材を集める環境整備 ⇒戦略目標5. 1. (1)「東北圏のものづくり技術を活かした戦略的な産業振興」に追記	戦略的目標5 地域の資源、特性を活かした世界に羽ばたく産業による自立的な圏域の実現 1. 国際競争力を持つ産業群の形成 (1)東北圏のものづくり技術を活かした戦略的な産業振興 【最後に追記】(資料5 P86 29行目) 国内外から人材確保に資する居住環境、子弟教育のための教育環境の整備を図る。
5	特徴の打ち出し	・東北の特徴を出すということで考えると、「防災」「人口減少」とあわせて、東北圏の「良い環境・国土」が挙げられる。 ・この点について、戦略的目標3の2、3で強調して頂きたい。	原案通り	(資料5 P64 13行目以降)
6	コンパクト+ネットワーク 対流	・資料4(はじめに)で、「例えば…」以降の「コンパクト+ネットワーク」について、もう少し踏み込んだ書き方にして、具体性が出てくると分かりやすい。 ・「また…」以降の「呼び込む」については、他圏域からの呼び込みのためには圏域内の活発化が必要であることが分かるように記述して頂けたらと思う。	「はじめに」を修正	(資料5 はじめに 一枚目下から6行目) 「このため、多様な産業の振興を図るとともに多世代が持続的かつ安全安心に暮らせる」
7	コンパクト+ネットワーク	・「コンパクト+ネットワーク」については、農山漁村と都市の連携についてのみ記述されているが、「都市と都市」の連携も考えられるし、冬に限ったものでもない。誤って解釈されないよう書きぶりに注意して頂きたい。	・コンパクト+ネットワークの内容については 戦略的目標4-3(1)東北発コンパクトシティの推進の中で「都市間連携」を記載	(資料5 P74 5行目以降)

■第3回有識者懇談会 主な意見と対応方針(案)

通し 番号	議事要旨より抜粋		対応方針(案)	計画原案(素案)の修正箇所と修正内容
	カテゴリ	主な意見		
8	課題提起	・また、人口減少は重要な課題であるが、さらに長い目でみると、 <u>人口に関係なく良い生活を送れる環境づくり</u> が重要である。今回のタイミングではまだ早いと思うが、今後検討して頂ければと思う。	戦略目標4 全般	(資料5 P69 1行目以降)
9	個別施策 (森林・林業)	・東北のメリットとして、豊かな自然に並行して道路が走っていることが挙げられる。 ・林業を1次産業だけで続けていくのは難しく、突き詰めると1次産業の6次産業化＝エネルギーの創出に繋がって行く。 ・ <u>林業はエネルギーを作り出す面でも活用可能</u> であるが、東北はこの点が弱い。 ・木質バイオマスについては岡山県が県を挙げて取り組んでいるが、 <u>東北の方がより効率的</u> に活用できる環境にあると思う。 ・森林の近くにインフラがあり、水田や畑も近接している。そういった面で、 <u>経費の削減が可能</u> であるので、強調してもらいたい。	・林業におけるエネルギー供給について、木質バイオマス関連の記載。	(資料5 P95 7行目)
10	将来像	・太平洋側・日本海側の2軸の連携という点について、新しい東北圏の将来像イメージ図が分かりにくい。 ・ <u>2軸を持っていることが東北の強み</u> であるということが分かるように表現して頂きたい。 ・ <u>ラダー構造と2軸のフル活用が繋がっていない</u> 印象をもったので、その部分を考えて頂きたい。	・日本海と太平洋の2軸の表現について ⇒将来イメージ図を改良	—
11	個別施策 (ゲートウェイ整備)	・観光によって人を呼び込むという点は重要。これまで各県ベースで事業が行われてきたが、 <u>東北全体で入口・出口のインフラを見直す必要がある</u> ことについても重点的に書いて頂きたい。 ・やはり玄関が魅力的でないと奥まで入ってきてもらえない。奥の方の整備は地域の人たちが頑張る部分だと思うが、東北全体として呼び込むという視点から、 <u>仙台空港をはじめとしたゲートウェイとしての機能を強化する</u> という内容を盛り込んで取り組んで頂きたい。	戦略目標5. 4. (4)「外国人を含む来訪者の受け入れ環境整備の充実」 追記 戦略目標6. 1. (2)「グローバル・ゲートウェイの機能強化」に記載。	(資料5 P101 20行目) 戦略的目標5 地域の資源、特性を活かした世界に羽ばたく産業による自立的な圏域の実現 4. 東北圏ならではの地域資源を活かした観光交流と滞在人口の拡大 (4)外国人を含む来訪者の受入環境整備・充実 (来訪者の満足度向上のための観光基盤等の整備) 歴史的なまちなみや建物・庭園・城址等の整備、案内表示、幅広歩道や無電柱化等による景観の向上、景観を乱す商業看板等の規制、観光地を散策できるフットパス(散策路)の整備、川とまちが近接し、河川利用が盛んな地域での川辺の拠点等、訪れる人々にうるおいを与える親水空間の整備、堤防緑化等の充実や、活力ある地域づくりを促進するための場となる道の駅、みなとオアシス、 空港旅客ターミナル等において 、来訪者の満足度向上に資する取組や整備を推進する。 (資料5 P106 1行目)「港湾・空港の利便性の向上」
12	個別施策 (観光)	・震災前後で沿岸地域の景色は一変した。背の高い防潮堤に囲まれ、海が見えなくなってしまった。 ・楽しむ観光という点では人が訪れにくくなっており、 <u>観光のイメージを変えていかないといけない</u> 。	ご意見として戴く	—
13	個別施策 (交流)	・今後、沿岸地域に産業や人口が戻ってくるのか非常に懸念している。 ・教育面でも、沿岸地域では教材がないということで、内陸から教材を提供してもらっている現状である。 ・総合的戦略も大事だが、「この地域はこれ」という、個々に応じた目標をもってまちづくりを行う必要がある。 ・この計画が、 <u>圏域内の横の交流、沿岸地域との交流の足がかり</u> になればと思う。	ご意見として戴く	—
14	将来像	・資料4(はじめに)で、「 <u>均衡性を維持しつつ</u> 」という文言があるが、「共同」や「新しい東北」と言う文言に変更してはどうか。 ・今の状態が均衡ある形だとは思っていないので、「 <u>維持</u> 」という言葉は再考頂きたい。 ・ <u>新しい均衡性を創出していく、一緒に発展していくといった表現</u> の方がいいと思う。	「はじめに」を修正する	「均衡性を維持しつつ」は、削除。
15	コンパクト+ネットワーク	・「コンパクト+ネットワーク」について、地方では「切り捨て」のイメージがあり、現状では説明不足だと思う。 <u>「コンパクト+ネットワーク」の結果、どのような暮らしになるのか</u> が描けていない。 ・地域の祭りや郷土芸能は東北の力である。 <u>「コンパクト+ネットワーク」が、祭り・郷土芸能の継承にもつながっていく</u> 。 ・祭り、郷土芸能、防災にも繋がる里山、豊かな自然について、 <u>結集・発信して継承していく</u> ということまで書き込むと東北らしさが出てくると思う。	・農山漁村の持続における祭りや郷土芸能の保全・継承は戦略的目標4－3(7)「特色を活かした文化・芸術機能の強化、まちづくりの推進」の中で祭りや郷土芸能の保全・継承について記載	(資料5 P76 20行目以降)

■第3回有識者懇談会 主な意見と対応方針(案)

通し 番号	議事要旨より抜粋		対応方針(案)	計画原案(素案)の修正箇所と修正内容
	カテゴリ	主な意見		
16	個別施策 (人材)	・「共助社会づくり」を描きやすい内容で簡潔に記載して頂きたい。 ・「中間支援組織」「地域づくりコンソーシアム」「地域運営組織」という言葉が使われている。 ・地元の人たちは「地域運営組織」として活動し、それを中間支援組織や行政、企業がサポートすることが必要である。「地域づくり協働体」は「地域運営組織」に応援団も含めたイメージだと思う。そのあたりをイメージしやすいように再整理して頂きたい。	・「地域づくり協働体」「中間支援組織」「地域づくりコンソーシアム」等の言葉の再整理	戦略的目標7 地域を支える人材の育成と共助による住民主導の地域運営の実現 2. 「東北につぼん」を創造する多様な主体による共助社会づくり 「地域づくり協働体」という言葉を、「地域づくりコンソーシアム」で統一【資料5 P116 19行目】
17	個別施策 (人材)	・戦略的目標7の3に「地域のまとめ役をコーディネーターとして活用」との記述があるが、 地域のまとめ役がコーディネーターになることは実際には難しく 、記述を見直して頂きたい。 ・また内容についても、防災に関する内容を、他への移行、すみ分けの整理を行って頂きたい。	・「地域のまとめ役がコーディネーターになることは実際には難しく」について指摘を踏まえて修正 ・戦略的目標7の分野で、防災に関連する部分は、他の目標への移行や棲み分けを行う ⇒戦略的目標7－2(2)地域防災力の向上は戦略的目標2－2(1)へ移行 ⇒戦略的目標7－2(3)多様な主体の連携による被災地の復興促進は戦略的目標1－1(2)へ移行 ⇒戦略的目標7－3(5)のうち、「被災地と被災地内外の人々との間の多種多様な新しいつながりの地域の復興・発展への活用」は戦略的目標1－1(2)へ移行 ⇒戦略的目標7－3(1)のうち、「復興支援活動と被災地ニーズをマッチングする取組みの推進」は戦略的目標1－1(1)へ移行	戦略的目標7－3(1)「地域のまとめ役を果たしている人材をコーディネーター等として活用し」の記載を削除。 戦略的目標2 災害に強い防災先進圏域の実現 2. 災害リスクを低減する防災力の強化 (1)ハード・ソフト・土地利用一体となった総合的な災害リスク低減の推進 (地域防災力の向上)【項目移動 資料5 P55 26行目】 戦略的目標1 東日本大震災からの被災地の復興 1. 被災地の復興に向けた新しい地域づくり (2)被災者の生活再建に向けた地域づくり (多様な主体の連携による被災地の復興促進)【項目移動 資料5 P43 10行目】 戦略的目標1 東日本大震災からの被災地の復興 1. 被災地の復興に向けた新しい地域づくり (2)被災者の生活再建に向けた地域づくり (多様な主体の連携による被災地の復興促進) 【最後に追加 資料5 P43 16行目】 東日本大震災においては、国内各地各層はもとより海外からもボランティアが被災地へ駆けつけ様々な活動が展開されており、こうした活動を通じて、被災地と被災地内外の人々との間に多種多様な新しいつながりが生まれている。これらのつながりを最大限に活かし、地域の復興・発展に有効に活用していくことが重要である。 戦略的目標1 東日本大震災からの被災地の復興 1. 被災地の復興に向けた新しい地域づくり (1)魅力に溢れ、安心して暮らしやすいまちづくり 【最後に追加 資料5 P42 25行目】 東日本大震災の被災地復興において、他圏から来た復興支援組織(NPOなど)と地元住民・行政との意思疎通を円滑にするため、復興支援活動と被災地ニーズをマッチングする取組を推進する。
18	対流	・対流について書き込んで頂いているが、まだ分かりにくい。 ・ 対流を起こす熱源と流れるもの が分からない。ヒト・モノ・カネが流れるものであれば、それを明記して頂きたい。 ・第3章に「東北圏への移住等を促進させる」とあるが、全国的な人口減少下で、ヒトを呼び込んだ側はいいが、移住元が減るというのは対流とは言わない。 ・新しい東北圏の将来像イメージ図は、交流、還流は示されているが、対流のイメージは湧かない。 ・第3章では、対流の熱源を示しているだけになっている。 ・特に ヒトの対流構造 が見えにくい。 何が流れて、何が熱源となっているか、どこで増減が発生しているか 等をイメージした上で再考頂きたい。	事例等により整理する。	—
19	対流	・対流について、「 どういう形で戻ってくるのか 」が課題である。 ・「流れるモノが何なのか」は地域ごとに追いかけていく必要がある。地域の人が、何を対象と考えるかによって、対流になっていないと捉えられることがあり得る。 ・対流の中身について、 事例等を使って丁寧に記述 してもらえたら。		—

■第3回有識者懇談会 主な意見と対応方針(案)

通し 番号	議事要旨より抜粋		対応方針(案)	計画原案(素案)の修正箇所と修正内容
	カテゴリ	主な意見		
20	個別施策 (エネルギー)	・ベースロード電源として原子力を使用するのではなく、 バイオマス発電 を利用していく等、新たな試みをやって頂きたい。 ・ 森林の可能性やバイオ問題 について、強く書き込んでもらいたい。	エネルギー基本計画を踏襲しながら、水力、バイオマス発電、太陽光発電などの再生可能エネルギーを最大限活用し、自立のかつ安定的な分散型エネルギーの供給体制の構築を目指しており、現状のままの記載とする。 バイオマス発電については、戦略目標5. 3(2)に記載。	(資料5 P89 21行目以降) (資料5 P95 7行目以降)
21	特徴の打ち出し	・多くの計画において、一次産業が古くてダメで、二次、三次と産業が発達すると中身が変わるとい う言い方をすることがあるが、そうではない。 ・一次産業に対する根本的な見直しによって、社会にとっての一次産業の重要性が見直されると思 う。 また、これに先進国である日本が取り組むことは、世界に与えるインパクトがあり、新しい観光の形 にもなり得る。 ・東北は一次産業が復活可能な地域であるため、そのことがキャッチフレーズの「豊かな自然」にも 表れていると思う。これらを資源、財産として対流を考えていければと思う。 ・資料4(はじめに)には、インパクトのあるキーワードを入れて頂きたい。	「はじめに」を修正	(資料5 はじめに 一枚目上から13行目以降) 「震災を教訓に災害に強くしなやかな東北圏の創出を目指す。具体的には、地震・火山対策、洪水・土 砂対策等の推進に加え、産学官が連携し、災害記録の蓄積・伝承、防災技術の研究・開発・普及な ど、ハード・ソフトの両面から総合的に取り組み、国内外に誇れる防災先進圏域の実現を図るととも に、グローバルな防災戦略の推進に貢献する。」 (資料5 はじめに 二枚目上から9行目) 「北海道新幹線の開業や仙台空港の民営化、港湾機能の拡充などにより圏域間の対流が促進される 条件が充実する。」
22	個別施策 (防災)	・防災に関して、「ハードとソフトを総合的に」とあるが、戦略がバラバラである。再度まとめて頂き、 ハード・ソフト・土地利用をあわせて総合的に防災に取り組むという内容にして頂きたい。 ・教育に関して、人材育成も大事だが、地域や企業の「リーダーの育成」が非常に重要であるため、 是非記述して頂きたい。	・防災においてハード・ソフトに加えて土地 利用を含めた総合的な記載 ⇒戦略的目標2ー2(1)「災害リスク低減 のためのソフト対策の推進」へ土地利用を 追記 …仙台防災イニシアティブ／2. 具体的施策 ／(1)ソフト支援より引用 ・防災教育に関して、地域・企業のリーダー を追記 ⇒戦略的目標2ー2(2)の「リーダー」の記 載部分に「企業」を追記 ⇒加えて、「防災訓練・教育の充実強化」 と「「自助」「共助」の強化」を統合する	(資料5 P55 8行目) 戦略的目標2 災害に強い防災先進圏域の実現 2. 災害リスクを低減する防災力の強化 (1)ハード・ソフト・ 土地利用 一体となった総合的な災害リスク低減の推進 (災害リスク低減のためのソフト対策の推進) ～BCPの策定を進めるとともに、 土地利用計画の見直しや建築基準の見直し等、災害に強い地域づく りのための抜本的な措置を実施する。 (資料5 P57 22行目) (2)防災訓練・教育の充実強化や災害の記録と伝承 【下線部追記】 (「自助」「共助」の強化) 具体的には、自主的避難の促進及び避難の円滑化・迅速化を図るためのハザードマップの活用や、 地域防災力の向上などに向けた消防団の体制、装備、訓練等の充実強化、自主防災組織などの活 動の活性化、 地域・企業 のリーダーの育成等に取り組む。
23	プロジェクト のすみ分け	・戦略的目標3に広域連携プロジェクトの13「東北圏の歴史・伝統文化、自然環境の保全・継承プロ ジェクト」となっており、「歴史・伝統文化」と「自然環境」が両方含まれている。 ・一方、戦略的目標5にも「地域の資源・特性を活かした」との文言がある。 ・プロジェクト13は、「自然環境の保全・継承」に絞って、森林・自然公園・農地・里山等も含めた自然 環境と、都市や農村との結びつきが強いことを前面に押し出した内容としてはどうか。東北の防災、 産業、観光には豊かな自然がルーツにあり、自然環境の維持・整備については、様々な分野の方 の意見を取り入れながら整理できる内容だと思う。 ・人が住んでいるところに関しては、戦略的目標4のプロジェクト3、4、5に東北発コンパクトシティの 考え方がうまく取り込まれていると思う。	・プロジェクト13「東北圏の歴史・伝統文化、自然環境の保全・継承プロジェクト」について、自然環境に特化したものとすべきであり、具体的取組のうち「歴史・伝統文化の保存・継承」と別立てにしたい ⇒「歴史・伝統文化の保存・継承」については、プロジェクト9「四季の魅力溢れる東北」を体験できる滞在交流型観光圏の創出プロジェクト」へ組み入れる	(資料5 P151 14行目) 広域連携プロジェクト13 【タイトルを下記に変更】 「 東北圏の自然環境の保全・継承 」 【具体的取組項目の移動】 「 歴史・伝統文化の保存・継承 」をプロジェクト9へ移動 ⇒(資料5 P140 14行目)
24	用語の定義	・ソフト面で「復興」という言葉が使われているのに違和感がある。 ・人口減少、後継ぎ不足等は震災以前からの課題であり、以前の状況に戻せばいいというものではない。乗り越えるだけでは次の東北は見えず、夢を持てる計画にして頂きたいと思う。	10年後に夢を持てる計画としたい	—
25	用語の定義	・「復興」という言葉は、単に元に戻るのではなく、さらに先へ進むという思想である。 ・具体的な復興の取組についてはできるだけ当事者の意見を反映できるような仕組みにしてい くことが、この計画だと思う。 ・どう復元するかを一括して議論するのではなく、それぞれの地域の住民の意向を汲み上げて、そ れが実現できるよう計画の中で位置づけるというのがポイントになる。 ・復旧ではなく、一歩先までいくということが分かるようにして頂きたい。		—